



祈念史料室みゆき (3月30日開設)

# 奉祝 天皇陛下御即位三十年

験をした、あるプロ野球のコーチも夏の甲子園のマウンドの上で、八月十五日にこの黙祷の経験をしたことを、貴重な体験、想い出として先日語っていました。

「試合は相手にリードを許し、苛立つた投球をしていたが、この一分間の黙祷の間、戦死された方々のことを思い黙祷するのですが、苛立つた気持ちがこの間に不思議と落ち着き、自分の中でもそれまでの試合を振り返ることができ、投球を立て直すことができた。

夏の甲子園のマウンドの上で、貴重なこの黙祷の体験をする投手は毎年一人だが、とても貴重な体験ができた」と語っていました。

毎年八月十五日正午に、それぞれの立場、それぞれの場所で英靈を偲び、黙祷を捧げることが、今日の繁栄や豊かさの礎となつた英靈のご遺徳を偲び、感謝の誠を捧げる術であり、日本国民として当然の道ではないかと思ひます。

当社も、今年三月三十日に開設致しました「祈念史料室みゆき」には、四月に約八〇〇名、五月、六月は各約四五〇名、七月には約二五〇名で開館より現在までに約二、〇〇〇名の方々にご来館頂きました。しかしながら

十代、二十代、三十代の次世代の来館者は約二五〇名、十三パーントに過ぎません。これら若い世代へ伝承していく事が、今後の課題であると思います。「史料室開設」の大きな目的の一つは、「英靈のご遺徳を後世に伝える」ということです。

本日参列の皆様方を始め、友好団体、崇敬者の皆様方には、引き続き英靈の慰靈顕彰に、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申します。  
長時間に亘り、ご参列賜り誠に有難うございました。

## 父の思い出

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章

大文字山の送り火をテレビで見ながら、父のことを思い出していた。

昭和十五年頃、一家は京都の伏見に住んでいた。父は親戚の「西陣織」を手伝い、母と祖母は、家で京の「しづく染め」に精を出していた。

伏見は水がきれいで豊かだった。それで父と近くの小川で、魚捕りをしたことがある。川を堰き止めて、どじょう等を捕つていてと、堰き止めて深くなつた方の川へ、私が足を滑らせて落ちたことがある。

その時、金太郎姿の私を、しっかりと抱き上げてくれたのが父である。その瞬間は今までに焼き付いていて、父を頼もしく思つた瞬間でもある。

桂川に掛かっている渡月橋を渡り、嵐山の蛍狩りに、一家で出かけたのもその頃であった。炎が描いた「大」の字を見る度に、幸せだった昔が偲ばれる。

大東亜戦争が始まり、父の仕事等も寂びれて、一家は広島更に呉へと転居し、父母が海軍工廠に勤め、私と弟の世話は、祖母がしてくれた毎日となつたが、大勢が働く呉は、食糧事情が悪く、大根ばかり食べていた様な記憶しか残っていない。

ちなみに国民学校の給食は、味噌汁一杯で、塩分が不足していた時代だから味噌は良かつたが、具は普通なら切り落とされる大根の葉っぱだけで、喉につかえた。そして弁当は米粒が少なく殆ど丸麦で、しかもその中には、サイコロほどに切つた大根が混じっていた。正に大根飯と大根汁である。欲しがりません勝つまでは・・・と、辛抱するしかなかつた時代だが、みんな瘦せて、体操の時間に裸になると、あばら骨が出ている者ばかりだつた。

栄養が不足すると皮膚病や伝染病に罹りやすくなり、私も風邪の症状に似た、ジフテリアで危うく命を落とすところだつた。

やがて灯火管制が厳しくなり、母から勉強を教わつてゐる時、雨戸から少しでも灯りが漏れつてゐると、長靴を履いたお年寄りが回つて来て、どんどんと戸を叩くので急いで灯りを消すのだが、何時も「国賊」とか「スパイ」と怒鳴つて帰つて行つた。

そうした厳しい状況の中でも、父はニュース映画を見に、よく近くの映画館へ連れて行つてくれた。『のらくろ上等兵』とか『フクチヤンの潜水艦』等の漫画が必ず上映されるので、私はこれが楽しみで何時もついて行つた。

段々戦況が悪くなつた昭和十九年の四月、三十三歳の父に召集令状が来た。本籍地の村長から電報が届き、それに続いて赤紙の入つた速達が着いた。村長からの電報にはユケ（征け）とあり、今でもその電報は残つている。



出征する前夜 私を呼んだ父は足の爪を抓みながら、長男だから祖母や母を頼む、お前が大学を出るまでの蓄えはあるから、心配しなくてよいと告げた。翌日は祖母と二人で父を見送ったが、それが最期になってしまった。四つ下の弟は、母に抱かれて郷里まで父に同行したが、残念だが父のことは何も覚えていない。今は祖母も母も逝き、父を覚えているのは私だけとなつた。母の死後に、父の遺髪が残つていたので、あの晩は髪の毛同様、爪もと考へた父の最後の爪切りだつたと気が付いた。

終戦後七十三年の歳月が過ぎました。国民の大部分が戦後生まれの時代になつた今日、改めて、我々戦前生まれの者たちは、英靈顕彰と戦争の愚かさと平和の尊さを後世に伝え行かねばなりません。

さて、今年の夏は四十一度を超える地域もあり、NHKが、命に係わる猛暑、とアナウンスしたほどでした。

元号、平成のもと  
最後の終戦記念日

愛媛縣護國神社英靈顯彰会

会長 関 谷 勝 翳



八月十五日、愛媛県主催の戦没者追悼式と護國神社のもと、終戦記念日の式典が執り行

もう一つ、驚きというほどではないが、機械化の進捗状況の速さを感じました。北欧四ヶ国は、人口の少ない国ですから当然と言えば当然かもしれません。空港では、チェックインから荷物の重量をはかり、送り先のタグをつけてコンベアに乗せるまで、全て自分で行わなければなりません。従来の空港の様に、カウンターに職員はいません。

今まで受けていた人的サービスは、急速に減り、変わって口ボット化、機械化が進むため、我々サイドは、機械化されたことに充分に対応する能力と技術を持たなければならぬ時代になりました。

最後に、今後の日本の状況を予測してみましょう。世界の潮流と同じく、機械化、ロボット化はどんどん進んでいくでしょう。人口減少は目を覆うばかりでしょ。景気の動向の第一は、何と言つても国内消費の活力にあります。日本は、日本の国内消費のパイはますます小さくなります。併せてトランプ政権は、アメリカ第一主義で国内優先であり、今までの様に経済面でも防衛面でも外国を援助することはしなくなります。特に日本は、経済、防衛両面でアメリカの庇護の元にありましたから、その影響は、想像を絶するものがあります。日本の柱である自動車に高関税をかけられることは、日本にとって大打撃です。

この様に、明るい見通しが立たない時こそ、国民一人一人がしつかりとした考え方のもと努力すべきでしょ。

## 鎮守・鎮魂の杜 愛媛万葉苑

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原茂

神社は鎮守の杜に囲まれています。鎮守とはその地を守護する神様です。また鎮守の杜は故郷の木による故郷の森でもあります。万葉苑はもともと戦後間もない頃、当時の土居宮司が護國神社鎮座の神靈をお慰めするため、御祭神の各郷土の特色のある植物を集め、「郷土植物園」として構想されたものです。幸い愛媛を代表する植物学者・八木繁一先生のご協力を得て、県下二百四十市町村から約三百二十種類の植物が集められ、今から六十五年前の昭和二十八年十月、発足しました。

その後、昭和四十二年、苑内に愛媛県師友会ひの会竹葉秀雄会長の発起で、額田王の「にぎたつの碑」が建立されました。その頃から郷土植物園に万葉植物を蒐集補足して愛媛万葉苑とする構想が整い、県下小中学生の一円募金などの協力を得て、昭和四十三年五月五日に郷土植物園に併設開苑いたしました。

その後、万葉苑の維持管理のため、財界や報道関係の協力を得て愛媛万葉苑保存会が結成され、伊予鉄道株の新野進一郎社長が会長に就任され、爾來南海放送株門田圭三社長など県内財界の有力者にご就任頂いてきました。万葉苑の維持は、この方々のご芳志の賜

物です。



一方、万葉苑の管理作業は愛媛県師友会ひの会や愛媛県VYSの会員、その他万葉苑に关心の深い有志の方々の奉仕作業に依存していました。しかし、竹葉秀雄先生やその後継者近藤美佐子先生の他界により、師友会やひの会会員の奉仕も無くなり、ここ二十数年は万葉苑同好の有志のみの奉仕に頼ってきました。中でも寒さ厳しい冬の季節から、酷暑の夏を通じて殆ど連日奉仕して頂く有志の方には頭が下がります。勿論、万葉苑の奉仕は全く

の奉仕ですが、例えば県立松山北高等学校の学校行事として、或いは倫理法人会の奉仕作業なども永年継続されてきました。このように本苑は他の万葉植物園とは異なった歴史を持つており、護國神社の鎮守の杜の一角を担つております。しかも苑内や境内には戦没者慰靈碑が十二基建立されており、まさに英靈鎮魂の杜でもあります。

ところで、万葉植物とは万葉集に詠まれた植物のことです。諸説ありますが、奈良春日大社の万葉苑目録には百七十六種類記載されていますが、その中にはワカメ・コンブの海藻やマツタケなどがあります。そこで愛媛万葉苑では百五十種類を目標にほぼ蒐集しました。

ところが、一口に万葉植物と言つても高山性、水生、陽性、陰性、湿性と、その特性は多様です。しかし、苑地は僅かに一ヘクタールで至極単純な環境です。それぞれの特性に叶つた環境は困難です。苦労して集めた貴重な植物ほど耐性が弱く、消滅したものもあります。それでもクネンボ・ムラサキ・カタクリ・オモイグサ・ジユンサイなど珍品も健在で、今でも百種を超える全国の万葉苑でも多い方です。

古典文学の研究家です。  
その時は「日本の万葉植物園～植物と和歌とツーリズム」をテーマに、五月から東京や奈良、和歌山など各地の万葉植物園を調査されていました。

調査の後で、記者を前に「万葉集は言葉が非常に難しいが、素晴らしい作品です」と見



事な日本語で挨拶された後、「植物を見て和歌を読むと、説明しがたい感動がある。この万葉苑には濃い緑やセミの声など季節や天気によつて異なる魅力がある」と、日本人顔負けの感性で懇懃に取材に応じておられました。その際マッコーリー博士の質問に答えて、前述のような万葉苑の経緯を説明し、英靈鎮魂の杜でもあることを強調しました。その節万葉集と外国人のことが話題となり、私はドナルド・キーンさん（米国人で日本に帰化した日本通の学者）のエピソードを紹介しました。キーンさんが戦時中戦死した日本兵の遺品を整理していた時、その背嚢の中から『万葉秀歌』（斎藤茂吉・岩波新書）を度々発見し、本当に驚き、そして感動されたこと。一般の兵隊でさえこれだけの教養のある日本国に魅力を感じ、これがきっかけで日本に関心が深まり帰化されたこと。そして私自身も中国で作戦中から、保定の陸軍予備士官学校で終戦を迎えるまで、私物の底に『万葉秀歌』を持ち歩いた体験と、過酷な戦陣にあっても唯一心安らぎ救われたのが万葉集だったこと。そして今なお『万葉秀歌』は愛蔵の一冊であることなどを話すと、彼は強い興味を示し、鎮魂の杜についても理解してくれました。駐車場整備の余波で、万葉苑は縮小されましたが、コンパクトに整備し、万葉の心と共に鎮守・鎮魂の杜として、先人たちの志を繼いでいきたいと努めております。

## 『戦友団体等による慰靈祭』

平成三十年

- 四月一 十日 松山市戦没者遺児有志の会  
五月十 二日 愛媛シベリアを語る会  
五月二十三日 愛媛県殉職消防職員

## 『遺族会等による慰靈祭』

平成三十年

- 四月十 一日 西条市徳田  
四月十 四日 今治市大西町  
四月十 四日 今治市大三島町  
四月十七日 伊予市下灘  
四月十七日 西条市周布  
四月二十三日 西条市三芳

## 〈永代祭祀料基金奉納者御芳名〉

平成三十年 四月

- 四月二十五日 今治市吉海町  
四月二十三日 西予市野村町野村  
四月二十三日 西条市正岡  
四月二十三日 松山市楠河  
四月二十四日 富山丸  
六月二十七日 今治市宮窪町  
九月二十日 西条市庄内

## 〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、京都靈山護國神社 創立百五十年記念誌

〔昭和〕

京都靈山護國神社

宮司 木村 隆比古様

愛媛県遺族会代表獻供奉仕者  
女性部 遺児 松山市北条辻 女性部 松山市福角町

得居啓子 梅悟

(敬称略)

## 平成三十年(四月)春季慰靈大祭奉仕者

〔尺八獻奏者〕  
清吟堂吟友会獻謹奉仕者(愛媛県護國神社獻謹会)  
九日 灵廟奉安祭

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

八東麗爽

坂本清堅

町田麗亀

吉岡麗萌

清水麗聖

河野麗朱

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

坂本清堅

町田麗亀

吉岡麗萌

清水麗聖

河野麗朱

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

## 一、「留魂」第二卷

若き航空将校達の死闘

## —陸軍航空五十六期生戦いと慰靈の軌跡—

松江市殿町 松江護國神社様

献花奉仕者(愛媛県華道会)

芳野宗啓社中 松山市土居田町 越智順子

平岩宗良社中 松山市平和通 福間帰依

灘岡愛

献花奉仕者(愛媛県華道会)

聽春流 松山市一番町 坂本美咲

灘岡愛

献花奉仕者(愛媛県華道会)

内子町遺族会 喜多郡内子町五百木 久保禮子

内子町遺族会 喜多郡内子町五十崎 松田保子

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

松山市針田町 香川博子

松山市馬木町 矢野歩

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

内子町遺族会 喜多郡内子町五百木 久保禮子

内子町遺族会 喜多郡内子町五十崎 松田保子

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

松山市針田町 香川博子

松山市馬木町 矢野歩

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

内子町遺族会 喜多郡内子町五百木 久保禮子

内子町遺族会 喜多郡内子町五十崎 松田保子

〔尺八獻奏者〕  
清吟堂吟友会獻謹奉仕者(愛媛県護國神社獻謹会)  
九日 灵廟奉安祭

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

八東麗爽

坂本清堅

町田麗亀

吉岡麗萌

清水麗聖

河野麗朱

坂本清堅

稻積清翔

河野麗朱

## 正式参拝

☆平成三十年五月二十八日

新居浜市遺族会

会長 高橋一郎様

計四十一名

☆平成三十年七月十一日

英靈にこだえる会愛媛県本部

会長 佐伯要様

計三十名

☆平成三十年九月十日

松山市遺族会役員会

会長 乗松悟様

計五十名

☆平成三十年四月十六日

松山市遺族会女性部総会

部長 清家征子様

計四十五名

☆平成三十年四月二十日

雲龍会

代表 古賀宏一様

計九名

☆平成三十年四月二十一日

松山市議會議員

向田将央様

計七名

☆平成三十年六月五日

松山市遺族会役員会

会長 乗松悟様

計四十四名

☆平成三十年六月十九日

愛媛縣護國神社英靈顯彰会

会長 関谷勝嗣様

計六十名

☆平成三十年五月三十日  
愛媛県遺族会理事会  
会長 関谷勝嗣様

計三十名

☆平成三十年八月八日

愛媛県瓦工業組合

理事長 菊池洋一郎様

計十八名

☆平成三十年九月二十一日

日本国史学会

事務局長 久野潤様

計二名

☆平成三十年九月二十一日

和プロジェクトTAISHI奉納揮毫

書道家 林龍峯様

計四十五名



☆平成三十年五月二十一日

ウエワク会

代表 曾我部玲子様

計十名

☆平成三十年七月八日

琇孝会

代表 山田孝子様

計二十五名

☆平成三十年八月十五日

伊豫豆比古命神社

宮司 長曾我部昭一郎様

計十一名

## 愛媛縣護國神社英靈顯彰会 入会と継続のご案内

感謝！ 終戦七十年記念事業 平成30年3月 完遂！  
(本殿一部改修・神橋改修・御幸殿建設・祈念史料室開設)

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。  
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國神社  
英靈顯彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。

### 愛媛縣護國神社英靈顯彰会特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備考
会費（年額）	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神札	御守	紙札	木札（小）	年1回発送
社報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顯彰石彫	×	×	○	



第2回英靈顯彰会語り部

